

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

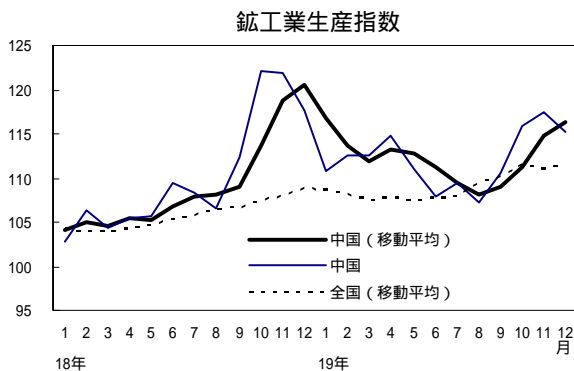
前回調査からの主要変更点

	前回(平成19年11月)	今回(平成20年2月)	
雇用情勢	着実に改善	改善の動きに一服感がみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

化学は、引き続き自動車や家電関連向けを中心に好調だったことや、合成ゴムの原料などが中国向けに好調だったことから、増加している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした国内外の需要が引き続き好調だったことや、天然ガス用パイプライン向けの特殊鋼管が中東向けに伸びたことから、増加している。輸送機械は、完成車の国内向け需要は引き続き伸び悩んでいるものの、国外は、アジア、欧州、中東向けに好調だったことから、増加している。一般機械は、半導体製造装置が国内外向けに好調だったことや、プラスチック加工機械が中国、アジア向けに伸びたことから、増加している。電子部品・デバイスは、携帯電話向けのアクティブ型液晶素子や水晶振動子が国内外向けに好調だったことから、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

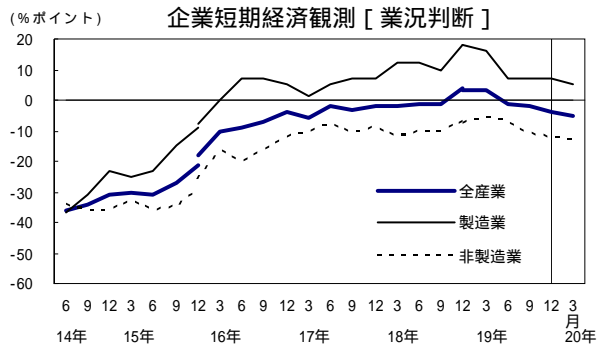
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
化学	17.6	1.8	1.9	2.8	0.9
鉄鋼	12.1	2.7	2.1	2.5	10.5
輸送機械	12.0	4.2	3.2	4.5	30.9
一般機械	10.4	7.7	10.7	13.5	7.1
電子部品・デバイス	7.6	13.8	37.8	21.7	-
鉱工業	100.0	1.9	6.5	3.5	3.5

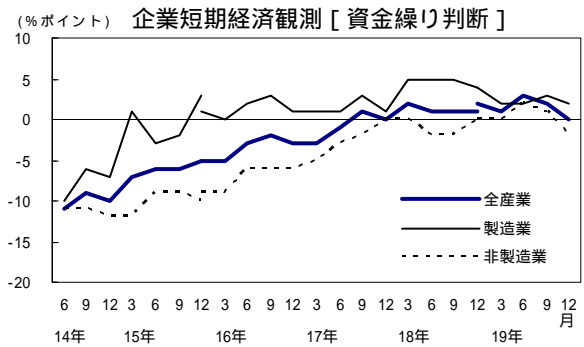
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

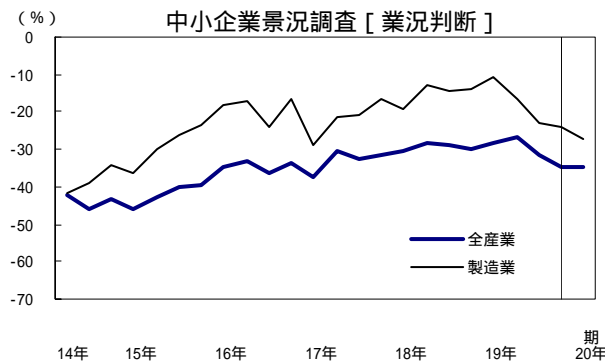
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

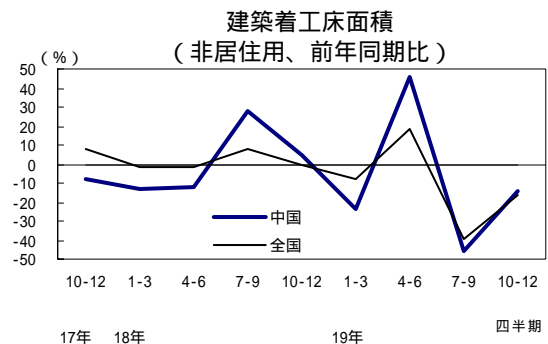
「原油の値上げによる材料費の高騰を、商品価格に転嫁した一方、消費者は燃料費の高騰により節約を余儀なくされ、それに伴い販売量の落ち込みにつながってきている(その他製造業[スポーツ用品])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	3.7	14.9 (1.4)
製造業	2.5	13.4 (2.2)
非製造業	14.6	17.3 (0.2)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

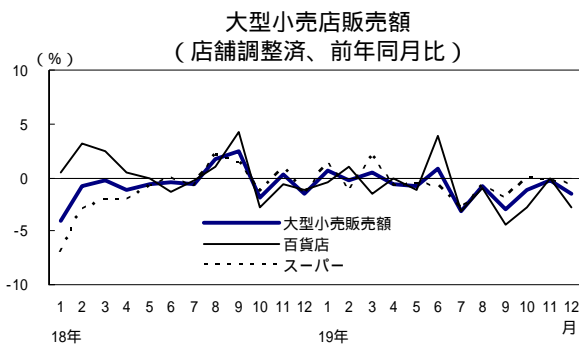
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、気温が高めに推移し、秋冬物衣料や鍋商材が不調だったことなどにより、前年を下回った。11月は、歳暮商戦や改装効果により、食料品の売行きはよかったものの、冬物衣料やブーツなどの身の回り品が振るわず、前年をやや下回った。12月は、気温が高めに推移し、コートなどの高額な冬物衣料が不調だったことや、歳暮商戦を前倒して11月から開始した反動もあり、6か月連続で前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、中国地区の1月の売上高は前年同月比で2.8%減となっている。

スーパーは、衣料品や飲食料品に一部動きがみられたものの、身の回り品、家庭用品が振るわなかったことから、全体では9か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

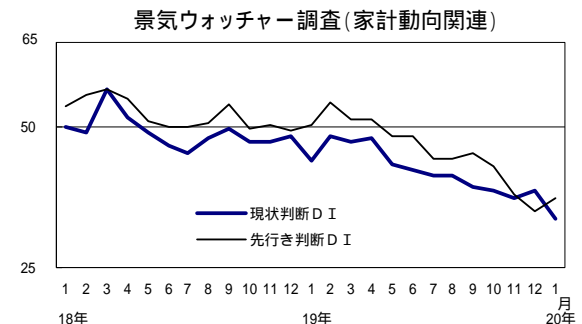
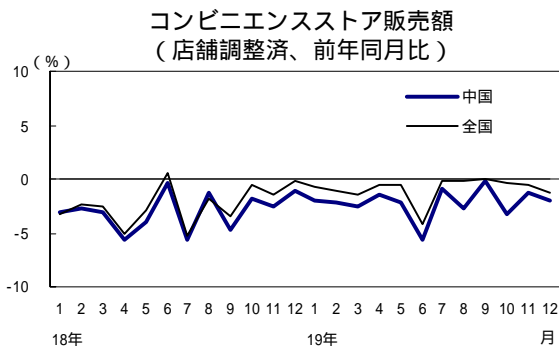
「ガソリンも高く、外食は減らすしかない」と言う話があり、実際、客の来店回数が減少している(一般レストラン)など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.3	0.2	2.3	1.0
百貨店	0.4	0.9	3.0	2.0
スーパー	0.8	0.8	1.9	0.4
コンビニ	2.2	3.1	1.3	2.1
景気ウォッチャー	46.6	44.6	40.8	38.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

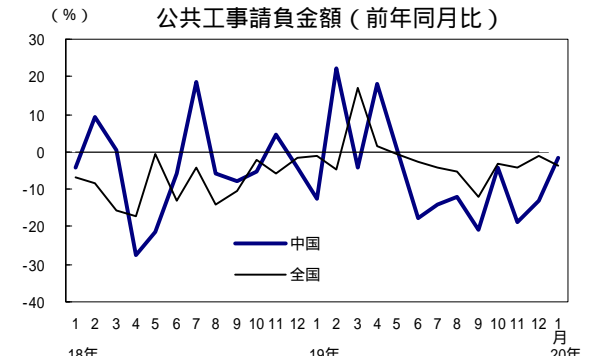
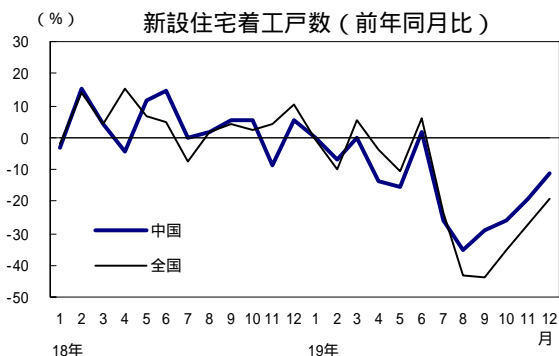
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

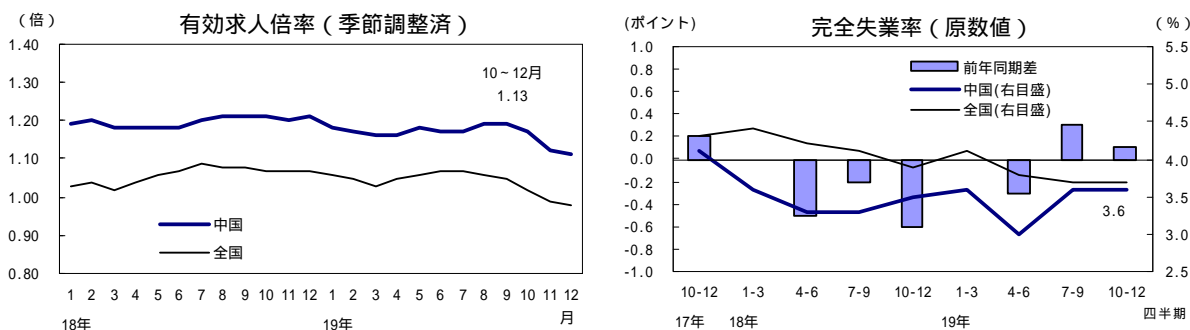


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

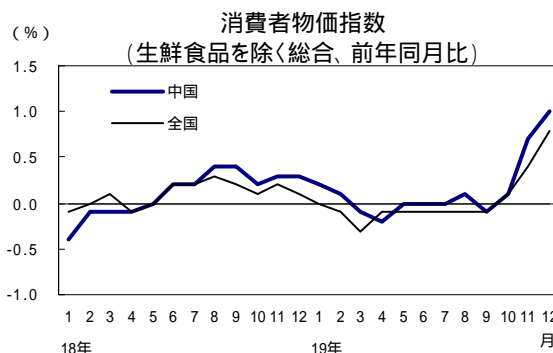
「サブプライムローン問題などで景気の先行き不透明感が強くなったことにより、大手企業の採用意欲が以前と比べて減少している(人材派遣会社)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は横ばいとなっているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	158	144	144	156	44
(前年比)	14.1	0.7	17.7	0.0	21.4
負債総額	611	454	897	624	189
(前年比)	20.8	8.8	25.8	58.5	4.8



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・セール初日の売上がオープン来、1日での最高売上を更新した。その後もセール売上は好調に推移した(百貨店)

<先行き>

- ・乗客から1つも良い話が聞こえてこない。介護タクシーの部門でも、すべての会社が赤字で、NPO法人進出の影響も大きく、当社でもやめる動きになっていく(タクシー運転手)

